

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	コミュニケーション論特論		
英文授業科目名	Advanced Lectures on Communication		
開講年度	2009年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-人間コミュニケーション学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学専攻		
担当教官名	深澤 浩洋		
居室	東1-409		

公開E-Mail	授業関連Webページ
fukasawa@hc.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
人間のコミュニケーションの基盤としての身体のレベルからコミュニケーションについて論じ、人間の特徴である文化（スポーツを含む）に注目して、その情報特性（コード・規範）やコミュニケーション特性（伝達・継承）、形成されるコミュニティ特性（結合）について議論を展開する。コミュニケーションツールの進展が身体文化のこれらの特性に与える影響、さらには新しい文化形成プロセスなどをめぐり、社会コミュニケーション学の新たな可能性を探ってゆく。単に言語によるコミュニケーションのみならず、より包括的な視座から人間コミュニケーションに対する理解を深めることを目指す。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
特になし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
コミュニケーション論、身体文化コミュニケーション論

<b>【教科書等】</b>
<p>参考書</p> <p>Mead, G.H. (1967) Mind, Self &amp; Society. The University of Chicago Press</p> <p>大澤真幸 (1989, 1990) 「身体の比較社会学Ⅰ・Ⅱ」 勁草書房</p> <p>ブレイク, A. (2001) 「ボディ・ランゲージ-現代スポーツ文化論」 日本エディタースクール</p> <p>アイヒベルク, H. (1997) 「身体文化のイメージーション」 新評論</p> <p>ブルデュー, P. (1988, 1990) 「実践感覚1・2」 みすず書房</p>

【授業内容とその進め方】

人間のコミュニケーションを理解する上での基本的な枠組みを確認する。次いで、コミュニケーションの構造や形式、意味を読み取る仕組み、文化におけるコミュニケーションについて提示し、具体的事例と共に概説する。また、受講者に対しては、テクノロジーや科学とコミュニケーションとの接点を探る内容を中心としたテーマでのプレゼンテーションを求める。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 コミュニケーション理論における身体の位置づけ
- 第3回 身体の社会的基盤性
- 第4回 身体的相互関係（模倣など）
- 第5回 意味の読み取り
- 第6回 言語的メッセージと表現的メッセージ
- 第7回 身振り媒介的相互作用
- 第8回 自我の発達とコミュニケーション・遊び
- 第9回 社会変容と文化、制度化
- 第10回 スポーツの社会的機能
- 第11回 ダンス・舞踊の歴史の変遷
- 第12回 プレゼンテーション
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席、プレゼンテーションおよび質疑（60点）、レポート（40点）で総合的に評価する。  
出席については、4回以上欠席すると評価対象とはならない。  
専門外の者に対してもコミュニケーションを駆使して理解してもらうことができる、レポートでは論理的な記述が展開され、自分自身のオリジナルな見解とそれ以外の見解との区別を示すことができることを最低達成基準とする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等がある場合はメールで問い合わせること。

【学生へのメッセージ】

ヴァーチャルなコミュニケーションがいかにリアルなコミュニケーションとつながっているかを考えながら参加してみるのも面白いでしょう。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【その他】
なし